

びっくり現象を  
集めると  
未来が見えてくる

No. 85

カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー (Chom) 学長  
日本ホメオパシー医学協会 (JPHMA) 名誉会長  
英国ホメオパシー医学協会 (EMMA) 名誉会長  
JPHMA、EMMA、A.R.H. 英国認定ホメオパス連合会 認定ホメオパス  
ホメオパシー名誉博士 (Hon.D.Hom.) 及びホメオパシー博士 (Dr.D.Hom.)

## 由井 寅子



# 神々とともに、 体と心と魂の癒しを

Interviewer 山上 晴美

人に本来備わっている自己治癒力は、さまざま  
な理由で機能しなくなることがあります。体・  
心・魂の三位一体の統合的治療が自己治癒力の高  
まりにつながることを伝えている由井寅子先生は、  
ホメオパシーとインナーチャイルド癒しを合体さ

せ、多くの人に救いの手を差し伸べています。ご  
自身の病気がホメオパシーで良くなったことをき  
っかけに、体験を通して気づいた自分への許し、  
さらに自然に感謝して生きる自然農への思いなど  
をお聞きしました。

### ● ゆい とらこ

ドイツ発祥の伝統医学、ホメオパシーを1996年から日本に導入。現代のさまざまな難病を治癒に導くZEN(ぜん)ホメオパシーは、今、世界のホメオパス(ホメオパシー療法家)から注目されている。2017年には、欧州4カ国(ドイツ、イギリス、オランダ、ルーマニア)から招聘(しょうへい)されZENホメオパシーを発表。Heritage(世界最大ホメオパシージャーナル)国際アドバイザー。日本ホメオパシー財団理事長。日本豊受自然農代表。http://www.torakoyui.com

※ 山上晴美(やまがみはるみ) 編集、ライター、ソマティックセラピー研究家。

有限会社木嶋舎(もくそうしゃ)代表 演劇、広報、出版の分野で創作、表現、発信に携わり、「ライフ&スピリット」を指針に、「心と身体と命」をソウルフルな視点で探求、発信している。

神々とともに、体と心と魂の癒しを

## 長年苦しんだ病を治した ホメオパシーとの出会い

—先生は、ホメオパシーでご自身の病気が治ったことがきっかけでこの道に入られたそうですが、それはどのような出会いだったのでしょうか。

由井…イギリスで仕事をしていたとき、潰瘍性大腸炎になって、2年間下血が続き、ひどいときで1日15回ほどもありました。常にお腹に疝痛があり、とても苦しいものでした。そんなときにホメオパシーと出会いました。処方されたのは、乳がんとヒ素を希釈震盪したレメデーです。もちろん、原物質は入っていませんが、レメデーを4日間とった翌日、昔罹った酷いインフルエンザの症状が戻ってきました。10日間続いた高熱が引いた頃、それまで我慢していた男社会であることや、実力があってもコネがないと良い仕事に就けないこと、貧乏人に対する社会の目などへの憤りが、ドーツと押し寄せてきたのです。怒りが鎮ま

る頃に、今度は生きることへの絶望的な悲しみが押し寄せてきました。母親から「お前はいらん子」と言われ、見捨てられたインナーチャイルドが泣いているようでした。泣いて、怒ってを1週間ほど続けた頃に、血便が出ていないことに気づいてびっくりしました。こうして長く患っていた潰瘍性大腸炎は1カ月足らずで完治したのです。性格も一変し、子どもの頃に帰ったかのように楽になりました。そして、体も心もすっかり楽になった頃に、ホメオパシーを勉強したいという思いがわき上がってきて、大学に入学して大学院まで5年間学び、ホメオパスとなり、イギリスでホメオパシークリニックを開業したのです。

健康になるためには、体・心・魂の、3つから異物を排泄しなければなりません。魂の異物は、「道徳的・優秀・美人であることが善」などの「この世的価値観」。これら異物を排泄する力が免疫力ですが、異物を異物と認識できないと免疫も働きません。異物を正しく認識することが健康の

鍵だとわかりますね。正しく認識するためには鏡  
が要ります。目の前に鏡を置くことで、今の自分  
の状態を正しく認識でき、自然な状態に戻して  
いくことができるのです。

「体の中に農薬が溜ま<sup>た</sup>っているよ」「心の中に怒  
りが溜ま<sup>つ</sup>ているよ」「魂は優秀でなければとい  
う価値観に縛られているよ」と言うだけではわ  
かりません。農薬が溜ま<sup>つ</sup>ていることを体に認識さ  
せるには、認識できるだけの農薬がもう1回入  
らなければいけない。そうしたら体は農薬を認識し  
て、これは大変だと排出していきけるのです。でも、  
農薬を入れるわけにはいきませんから、天文学的  
に希釈震盪した農薬のレメディーを使うのです。  
原物質を含みませんので毒性もなく安心して使う  
ことができます。ホメオパシーのレメディーは、  
自己認識のための鏡なんです。

## 200年前に発見された、 体と心の異物を認識させる同種療法

——同じ種類のもので治すというのは、他の治療  
方法とは完全に逆なのです。

由井…はい。熱・発疹<sup>ほっしん</sup>・咳<sup>せき</sup>・下痢などの症状は基  
本的に異物の排出症状ですから、解熱剤やステロ  
イドで止めると慢性病になっちゃう。熱には熱を  
出させるレメディーをとることで排出を促進させ  
たほうがいい。異物の排出が終わったら自然と熱  
は下がります。「原物質を含まないのであれば、レ  
メディーの中には何があるの？」と、よく聞かれ  
ますが、原物質の情報が入っていると考えていま  
す。水は磁気テープのように、物質情報を保存す  
ることができません。水の中に農薬はないけれど、  
農薬の情報はパターンとして残っているわけです。  
私たちの生体は物質的な接触によって認識してい  
るわけではなく、水を介した物質の振動パターン、  
つまり物質の情報をキャッチして認識しているの  
です。

人に「こら！」と大声で怒鳴れば、相手は心に  
恐怖を抱き、体が硬くなりますね。物質はなくて

神々とともに、体と心と魂の癒しを



左から由井真子さん、山上晴美

も、情報だけでも心や体は反応します。そして、魂にも影響を与えます。希釈震盪の技術によって、物質に潜在する心や魂が顕在化してきます。だからホメオパシーのレメディーは、体の異物だけでなく、心の異物も排出していく力があるのです。例えば、トリカブトのレメディー（アコナイト）は

「恐怖」を、塩のレメディー（ネイチュミア）は、「深い悲しみ」を解放し癒してくれます。また、叩くこと<sup>たた</sup>によって情報を増殖させることができず。希釈・震盪をセットで繰り返すことで毒性はなく、薬効だけを高めることができます。この技術は本当に素晴らしいと思います。ホメオパシーの創始者、<sup>\*</sup>ハーネマンは200年も前によくこんな治療法を発見できたなと思います。

### 幼少時に縛り付けられていた 母親の価値観から解かれて

——今の活動は先生の幼少期の体験が大きく影響されているとうかがいました。

由井…私が母のお腹に宿って、3カ月ぐらい経ったときに父が死にました。すでに2人の子がいたので、また子どもができてしまったら、働き手は母しかおらず、お金が稼げず皆死んでしまうかもしれない。食<sup>く</sup>い扶<sup>ぶ</sup>持<sup>ち</sup>を増やすわけにもいかず、母としては私を産みたくなかった。だから、私を墮<sup>お</sup>

※ サミュエル・ハーネマン：同種療法ホメオパシーを確立させたドイツの医師、科学者（1755～1843年）。

ろそうとして、お腹を叩いたり、冷たい海で泳いだり、重い石を持って踏ん張ったりしましたが、墮りなかったのです。私の人生は、最初からいらん子人生だったわけです。子どもは、親から愛され、面倒をみてもらえないと生きていけませんよね。一方親は、条件付きの愛を子どもに与えます。良い子だったら愛する、勉強できたら愛する。すると子どもは愛してほしくて親の価値観で価値ある存在になろうとします。

母は、女は駄目だ、貧乏は駄目だ、役に立たないのは駄目だ、頑張れない奴は駄目だと口癖のように言っていました。生まれてからもいらん子の私は、母に愛してほしい一心で、子どもなのに一生懸命、お茶碗洗ったり、背骨が曲がるほどの荷物を背負って山仕事を手伝ったりしていました。女性であることを否定し、髪を刈り上げたりもしていました。そうして、ずっと頑張って母ちゃんこれやったよ、寅子はいらん子じゃないよね？とやってきた。たまにほめてくれることもあった

けれど、根本的に愛されていないことを知っているから、全然幸せじゃなかった。

子どもの寅ちゃんは、自分が女だから、役に立たないから愛されないのだと、ずっと自分を責めていました。一度でいいから愛されている感覚がほしくて頑張っていました。とうとう得られないまま母は死んでしまいました。愛されたい、愛されない悲しみをいつも我慢していたために、未解決な欲となり、その母への思いを社会人になって上司や友人に投影して頑張っていたのです。私が潰瘍性大腸炎を患ったのは、仕事上徹夜も多く、上司にほめられると嬉しくて、体のことをかえりみずに、頑張り続けてきた愛されたいインナーチャイルドがいたからです。愛されるために過労死してもいいと思っていました。だから働くことができないうちに2年間は、挫折感も半端なく死にたくありませんでした。唯一頑張った役に立っているときが、自分の存在価値を認められるときだったからです。

神々とともに、体と心と魂の癒しを

## 無条件で愛してくれる自然の中で 見つけた光明

由井…ホメオパシーで血便が止まったある日、久しぶりに庭に出てみました。ロビン（コマドリ）という、胸の赤い鳥が来るのですが、そのさえざりを聞いたり、色の美しさだけを見ただけで涙が出てきました。愛されたいために自分を酷使して働くという今までの生き方、考え方では駄目なんだからって思いました。そして「今まで、よく頑張ってきたなあ」と体をなぜたら、涙が横に飛ぶように出てきて、自分をもっと大事にしてあげようと思えてきたのです。クロツカスやヴィクトリアプラムの真っ白な花が咲いていて、母に怒られて山に行き、花々に癒されていた子どもの頃、もう帰ってくるなって言われて、木に抱きついて泣いたことを思い出しました。私にとって本当の親は自然だったんだって思いました。自然が無条件に私を愛してくれて、生かしてくれたんだって、すごく

温かいものを感じました。

そこで確かな光明を見て、私は何が問題だったのかと考えたときに、小さい頃に願いを我慢したインナーチャイルドに行き着いたのです。母の価値観を信じ、正直な思いを我慢していることがわかったときに、それを全部はずそうと。「疲れているときは休んでいい。泣きたいときは泣いていい」こういう、許す作業を20年くらいやりました。それがインナーチャイルド癒しです。自分を慰めて労ねぎらってほめて、駄目な自分を許してあげるのです。ただし、胎児のときから刻み込まれた、無価値観、絶望感、虚無感、自己否定感は強く、母の価値観を越えていくことは本当に大変でした。詳細は、『拙著『人生は負けるためにある』（ホメオパシー出版）に書きましたが、母の価値観を超えていくためには、母の価値観で駄目な自分を、大人の自分が許していくこと、無条件に愛していくことが必要です。そして駄目な自分を許していくためには、その前に駄目な自分を真正面から認め

なければなりません。これが本当につらいのです。自分の未熟さ、駄目さ、弱さを認めることから逃げて、駄目にならないように頑張ったり、自分を駄目だと言う相手を否定し怒りで戦ったりしていたのです。母から見れば確かに私はいらん子で邪魔な存在でした。存在価値のない、死んでくれたらよかったです。それを認めて、生まれてきたことをイメージの中で母に謝りました。何度も何度もイメージしてやっとなら、「いいよ、存在していいよ」と許してもらえたとき、ありがたくて涙が噴き出しました。こうして母の呪縛じゅばくを離れ、自分の価値観で生きることができるようになりました。やっと自分の足で立つことができたのです。

## インナーチャイルド癒しで変わっていく人々

— そのご経験から、現在、インナーチャイルドのこともされているのですね。

由井…はい。ホメオパシーは体・心・魂を三位一体で癒せる稀有けうな治療法ですが、限界があります。その限界を突破するのが、心と魂を救うインナーチャイルド癒しと信仰心です。田畑や太陽、風、雨など、自然の中に神様を感じられたら、生かされている感謝（信仰心）が出てくるでしょう。感謝の心はすぐ自己治療力が上がるんです。この3つを揃そろえてやるのが、ZENホメオパシーです。ハーネマンさんは、間違った価値観に囚とらわれる信念の病気がある者や信仰心がない者はレメディーを与えても効かないので治療を断念しなさいと言っています。でも私は断念しなくなかった。だから、信念の病気がある人にはレメディーだけでなく、自分で自分を許していくインナーチャイルド癒しを。信仰心がない人には、感謝の行をやるよう指導しています。

あるとき、指の関節痛に悩むリウマチの患者さんがホメオパシーで改善しましたが、また働けるようになったのに、頑張らなきゃっていう信念か

神々とともに、体と心と魂の癒しを

ら、ぶり返してしまっただけです。必要以上にやり過ぎて関節が動かない。次に来たときに「少し抑えて、今までの80%でやってみて。そしてなぜ頑張らなきゃいけないと思ってしまうのか考えて」と言ったら、急に泣き始めてしまいました。母が父を早く亡くして私たちを育ててきたからわがままを言えなかった。母を手伝わないといけない。泣き言を言わない母のように私も言っちゃいけないと思った。母の価値観を信じて、自分をいじめているので、人にもきつくなっていました。親の価値観をはずして、ソファでのんびり寝ていても許せる心になつたら、二度とリウマチにならないと伝えました。その後、つらいときにはつらいと言え、泣きたいときには泣けるようになり、弱い自分を認め、許し、とても良くなり、やさしいお顔のお母さんになりました。私たちは誰もが多くの「この世的価値観」を抱え、本来の自分を生きられなくなっています。神仏は、あなたが泣いても、弱音を吐いても、何も咎めません。自分

の感情（願い）を正直に表現することが大事なのです。そして、神仏から愛されていると思える信仰心があれば、自分も人も万物も大事にできるはずです。

### 無農薬、無化学肥料、自家採種の農業をスタート

——農業生産法人を立ち上げて、自然農で本格的に農業を始められたのはどんな理由からですか。

由井：今、患者さんには、アトピーや花粉症や電磁波過敏症の方がとても多いです。この方々は電車に乗っただけでビリビリ来るようです。あるアトピーのお子さんがレメディーで良くなったんですが、農薬がかかったものを食べるとまた出てくるんです。無農薬でもアトピーと喘息がひどくなった人もいました。雄性不稔のF1の野菜が怪しいと思いました。ミトコンドリアの遺伝子異常の花粉のできない野菜です。そこで、お百姓さんに種からこだわって作ってくれないかと頼んだら、

無農薬はできても種を採ってまではできないと言われました。それで、もう自分たちで作らないといけないと思ひ、7年前、静岡県函南町の富士山が見える場所に農地を買って、農業生産法人「日本豊受自然農株式会社」を創業しました。それから、自然農の作物を原料にした味噌、醤油、豆腐や化粧品などを製造しています。2反くらいから始めて、今は120反あります。昔ながらの自然型農業を復興し、自然な種で作物を作ることでは健康になると確信したからです。

—— 豊受という名前は、神様の名前ですね。

由井… 五穀豊穰の神、食べ物神様の豊受が、いと思つて、外宮に3回行って4回目にやっと許可をもらいました。「そこまで使いたくないなら使つてよろしい。ただし、豊受到に恥じないような作物、栄養があり、人間を害さない作物を作りなさい。生きとし生けるものに感謝の念を持ってありがたいと思ひなさい。これをやれるか」と言われたので、「やります」と答えて、スタッフたちに条件

を伝えました。農薬を使わない。肥料もほとんど落ち葉堆肥だけ。雨も風も土も太陽も、どこにも神々がいるので、神々に感謝しながら働くこと。

畑作業は、6月、7月の毎日の草取りが一番苦しいです。昼のジリジリする太陽の暑さは本当につらいです。そのときに、ふっとそよ風が吹く。ありがたい。休憩のときに井戸水を飲めば、冷たくてありがたい。冬の寒さに震えるとき暖炉の暖かさがありがたい。それらがすべて甘露なんです。そこには神様がいます。すべてがありがたい。そういう気持ちでやっています。

土にいる土壌菌と、作物の側根から出る根酸という酸と一緒に小石や土を溶かしてミネラルを吸い上げるんです。化学肥料ばかりが入ると土の微生物が死に、主根ばかり大きくなって側根が発達しません。だから、ミネラルが少ない生命力の弱い作物となり、腐りやすくなってしまいます。豊受の農場の作物を使った「豊受オーガニクスレストラン」には、最近海外の方も来てくれるよう

神々とともに、体と心と魂の癒しを

になりました。ヨーロッパはオーガニックが広まっています。日本はまだ少ないですね。農業を大事にしている理由の一つは国民の健康と、この国を栄えさせるために自給自足が必要と思うからです。自給自足率は、イギリスが、土地がやせているのに70%。フランスは160%。ドイツは130%。日本はたったの38%しかないんです。食べ物がなくならない戦争が起きますから、自然農が復興すれば戦争にならないんじゃないかと思えます。皆さんも自給自足の精神で、家を建てる時は土地の8割は畑にする。一人一人が自分の食糧を自分で敵を立てて作ってほしいと思います。

### 離れてみて知った母国の素晴らしさ

——イギリスに長くいらして、そこから見た日本はいかがでしたか。

由井…日本人は戦争の罪悪感が強くて、国歌を歌えない、国旗を立てられないなど、自尊心の低さ

を感じます。古神道や国史をもっと教えるべきだと思います。農業が衰退したら国は滅びると思いますが、自国の自尊心を失っても滅びると思いません。ヨーロッパに15年いましたが、由井寅子個人と日本人であるという責任を問われるんです。日本の神話や歴史を知らないと会話にならないし、日本の本当の良さを知ってもらおうと、日本のことを勉強しているうちに日本という国がとても好きになりました。海外から日本と日本人を見て惚れ直したのです。私の母国は日本なんだと心から感じ、日本で命をまっとうしたいと心から願いました。

日本に帰って来てからは、日々患者さんの治療とホメオパス育成に尽力する中、私ももっと幸せになりたいくなりました。50歳の誕生日に自分に問いかけました。何がしたいの？と。そうしたら、自然の中で自然農をしたいと言っている自分がいのです。昔からやっていたことが蘇って来たのです。いつも私にとって母のような自然と一緒に

ですから。ちょうど国は6次産業を進めています。百姓が種から採って育ててそれを材料にして安心安全な化粧品や食べ物や加工品や生活用品を作っていました。日本に帰って来て20年の今。やっとここまで来たというところでしょうか。

## 「見不幸な出来事」 乗り越えるためにやって来た

—— これまで、いろいろな経験をされて今日がおりかと思いますが、振り返って今はどんなふうに感じていらっしゃいますか。

由井…自分の所に来た、一見不幸に見える出来事は、必ず乗り越えられるから来たのだと思います。振り返ると、朝日新聞に1年間叩かれたことが、ありがたいいい試練だったと思います。必ず乗り越えられるってみんなに言いました。人間万事塞翁が馬です。当時の私は、人をたくさん治して、由井寅子ここにありという感じで、謙虚さがなく、

とても偉そうでした。叩きのめされないと人はわからないのです。朝日新聞には言い掛かりのような記事を多く書かれ、ネット上でも誹謗中傷されました。辞める社員も出てくるし、売上は激減。給料も払えないんじゃないかと思い、とても苦しかったです。でも、収益は減っても、真の医学であるホメオパシーを潰すわけにいかないので、小さくしてでも残そうと思いました。そして農業に、より力を入れたと思うようになり、オーガニックストレスランも始めました。

それから、さらに、農業をやらねばと思ったのは、3・11です。あれだけの命が一気に失われたのはとてもショックでしたが、現地に4回行って、被災者の方の心が萎えないために、今を生きるための講演会をしました。体も大事ですから、野菜と水を箱に詰めて15個持って行ったら、たった15分でなくなつたのです。みんな安心安全な野菜を求めていた。こういうときは、ホメオパシーよりも、安心な水と食べ物的大事だつて気づきました。

神々とともに、体と心と魂の癒しを

謙虚になれたのは朝日新聞と3・11のおかげです。あれがあったから、今の自分があるのかなと思います。

相談に来る患者さんも、痛みがあるのはつらいのですが、痛まないときもあり、そうすると普通であることに感謝して謙虚になれます。痛みを今、神様がくれているから、それを今、嫌がらずに受け取ります。相談会では、自分に起こった出来事には必要があるので来ていると思える心を養うために、インナーチャイルド癒しをしてみたいです。そして体・心・魂を三位一体に癒すZENホメオパシーをやりながら、安心安全で栄養のある食物で食養生をしっかりと、祝詞のりとや「般若心経」はんにやしんぎょうも唱えて、神仏に帰依する気持ちを持つ。このように自力でインナーチャイルド癒しをし、他力でも神仏に頼り両方の力で生きていくのが幸せへの近道だと思えます。

——ホメオパシーに限らず、これから発展させていきたいことや新しく始めたいことは何かありますか。

すか。

由井…原因がカルマから来る人や、自分を責めて卑下したり傷つけたりしている人が多いので、そういう人たちを救う宗教家のようなことをしていきたいです。多くの方が昔の私のように、神仏を恨み、自分で自分ばかりつらい目に遭わねばならないのかと苦しんでいます。その人たちが救われるにはどうしたらいいかを考えています。愛されたいとか優秀になりたいとか、その心の欲（インナーチャイルド）があつたら神様と一緒に仕事はできませんから、私自身が欲をかかないように、もつとインナーチャイルドを癒し、許せる範囲、愛せる範囲を広げる修行を続けたいと思います。本当に、魂から自他共に救いたいと思っているか、神様から試されていると思えます。

——今日は、先生から、幸せに生きるための哲学も教えていただきました。貴重なお話をありがとうございました。